Operation Guide 2616

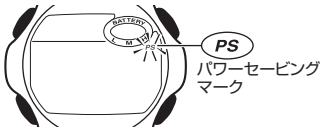
CASIO

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

・表示スリープ
午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
アラーム・時報の報音は行ないます。
※ タイマーモード、ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。



・機能スリープ
表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
➡パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
アラーム・時報の報音は行ないません。
※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

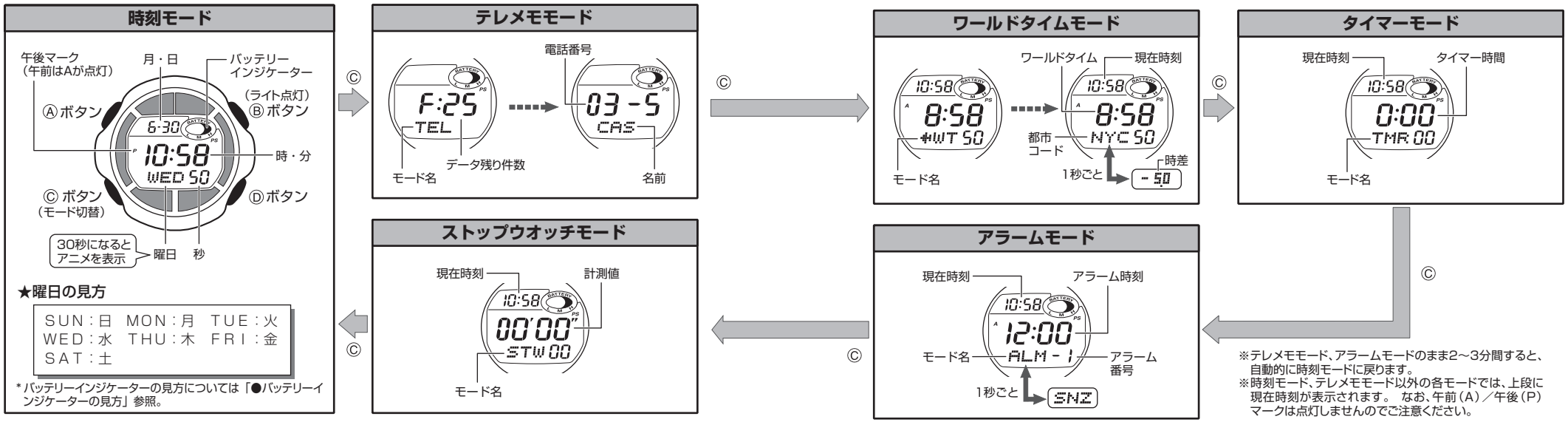
●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「■時刻・カレンダーのセット」をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

操作のしくみと表示の見方

Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。



※テレメモモード、アラームモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。
※時刻モード、テレメモモード以外の各モードでは、上段に現在時刻が表示されます。 なお、午前（A）／午後（P）マークは点灯しませんのでご注意ください。

電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル4)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- EL バックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●バッテリーインジケーターの見方

レベル1	BATTERY L M H	すべての機能が使用可能
レベル2	BATTERY L M H	すべての機能が使用可能
レベル3	LOW BATTERY L M H CHARGE	液晶表示不可、EL点灯不可、アラーム・時報などの報音不可
レベル4	BATTERY L M H	時計機能停止（時計発振不可）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル4になっても再度充電を行なうことで使用できます。
※レベル４から充電したときは、レベル３になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、その他の操作はできませんので、レベル２またはレベル１になるまで十分に光を当ててからご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

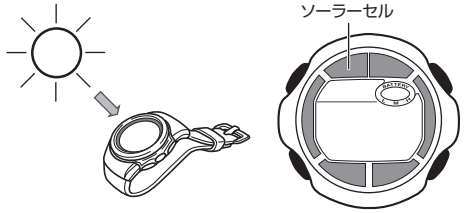
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約12ヶ月動き続けます。

1 日あたりの使用量

- ELバックライト：約1.5秒間
- アラームの報音：約 10 秒間
- タイマー：1 回
- 表示点灯：約 18 時間

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約5分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約24分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル4 ➡ レベル3 ➡ レベル2 ➡ レベル1		
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約90分	約25時間	約7時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約6時間	約126時間	約35時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約11時間	― ― ―	― ― ―

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

表示照明用 EL バックライトについて

本機の表示部には EL パネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる
～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

Ⓑ ボタンを押します

➡ Ⓑ ボタンを押すと約 1.5 秒間文字板が発光します。
※時刻モードのときは、ライト点灯に合わせてアニメを表示します。
※オートライトOFFのときもⒷボタンを押すと発光します。

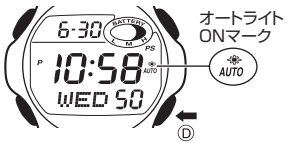


本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■ 時計を傾けて発光させる
～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。
※明るいときは、自動発光しません。
暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約 1.5 秒間発光します。

準備：時刻モードのとき Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●文字板を発光させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。
※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を± 15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈EL 発光についてのご注意〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に Ⓑ ボタン以外のいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約 1.5 秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトを OFF にしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

CASIO

テレメモの使い方

時刻モードから Ⓒ ボタンを 1 回押して、テレメモモードに切り替えます。

テレメモモードでは、名前（8 文字）と電話番号（12 桁）のデータを最大 30 件メモリーできます。

※テレメモモードに切り替えると、データ残り件数を表示後、前回このモードで最後に見たデータを表示します。

■ データのサーチ

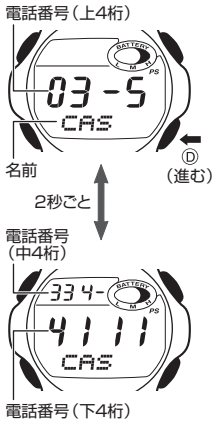
Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにデータが順番に進みます。

※ 押し続けると早送りができます。

※ 名前が 4 文字以上のときは、右から左に流れて表示されます（名前の最後に“<”マークがつきます）。

※ 電話番号が 5 桁以上のときは、2 秒ごとに切り替わって表示されます。



■ データを入力する

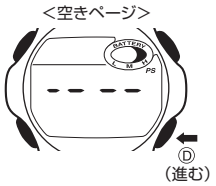
1. 空きページを選ぶ

Ⓓ ボタンを押して、空きページを表示させます

※ 空きページは入力してあるデータの最後に表示されます。

※ データがすでに30件メモリーされているときは、“FULL”と表示されます。不要なデータを消去しておいてください。

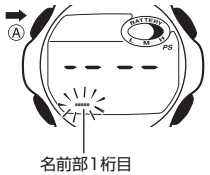
*「■データを消去する」参照。



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡名前部1桁目が点滅します。

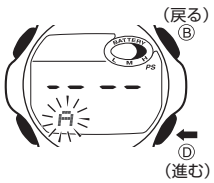


3. 点滅箇所のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の文字（数字）が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りができます。

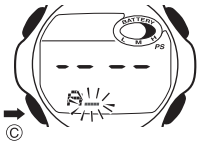


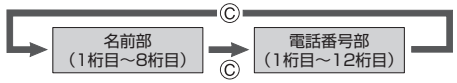
4. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。

※ 押し続けると点滅箇所が早く移動します。





手順3.と4.の操作を繰り返して、データを入力していきます。

※名前は最大８文字、電話番号は最大 12 桁まで入力できます。

※入力できる文字は、名前部セットのときは（空白）、アルファベット（A～Z）、数字（0～9）、記号（－.：／）で、電話番号部セットのときは－、0～9、（空白）です。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡名前部の 1 桁目が点滅して、引き続き他のデータを入力することができます。もう一度Ⓐ ボタンを押すと、点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

※ データを入力すると、名前順に並び替え（自動ソート*）が行なわれます。

* 自動ソート… 記憶されたデータは名前の先頭から比較し、（空白）、アルファベット(A～Z)、数字(0～9)、記号(－.：／)の順で自動的に整理されます。

■ データを修正する

1. Ⓓ ボタンを押して修正したいページを選びます

2. Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡名前部の 1 桁目が点滅します。

3. 修正したい部分までⒸボタンを押して点滅を送り、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押して文字（数字）を修正します

4. 修正が終わりましたら、 Ⓐ ボタンを押します



■ データを消去する

1. Ⓓ ボタンを押して消去したいページを選びます

2. Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

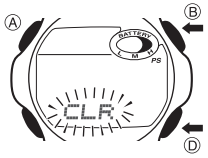
➡名前部の 1 桁目が点滅します。

3. Ⓓ ボタンと Ⓑ ボタンを同時に約２秒間押します

➡“CLR”点滅後、確認音が鳴り、データが 1 件消去されます。

※ データ消去後、引き続き他のデータを入力することができます。

4. 消去が終わりましたら、 Ⓐ ボタンを押します



ストップウオッチの使い方

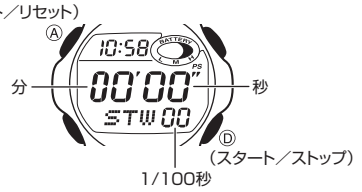
時刻モードから Ⓒ ボタンを 5 回押して、ストップウオッチモードに切り替えます。

ストップウオッチは 1/100 秒単位で 59 分 59 秒 99（60 分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。



●計測中にⒶ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（“SPL”表示）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

●計測終了後Ⓐ ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります（リセット）。

●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

（Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 の間：スプリットタイム表示）

●１・２着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

ワールドタイムの使い方

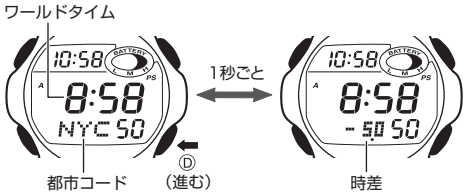
時刻モードから Ⓒ ボタンを 2 回押して、ワールドタイムモードに切り替えます。

ワールドタイムモードでは、世界27都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。
※ワールドタイムモードに切り替えると、前回選んだ都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。
※基本時刻を24時間制にしているときは、ワールドタイムも自動的に 24 時間制で表示されます。

■都市のサーチ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに各都市の時刻を表示します。
※ 押し続けると早送りができます。
※「都市コード」と「時差」は 1 秒ごとに切り替わって表示されます。



■ワールドタイムの合わせ方

ワールドタイムの時刻は、表示される都市のうち、ある1つの時刻を合わせると、時差にしたがい他の都市の時刻も自動的にセットされます。

1.都市コードを選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押して、セットしたい都市コードを選びます。

例）都市コード "TYO"（東京）をセットする



2.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約1秒間押します

➡"DST" と "On" または "OF" が点滅します。
※ このとき、Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの ON／OFFを設定することができます（「■サマータイムの ON/OFF 設定」参照）。



3.「時」のセットに切り替える

Ⓒ ボタンを押します

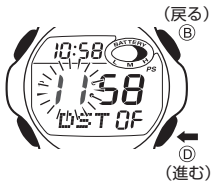
➡「時」が点滅します。



4.「時」のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
※ Ⓓ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）、または24時間制にご注意ください。



5.「分」のセット

Ⓒ ボタンを押します

➡「分」が点滅します。
「時」のセットと同様にⒹまたはⒷ ボタンでセットします。



6.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※ 点滅表示のまま 2 ～ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。

■サマータイム（DST）について

サマータイムとは DST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

1.設定したい都市を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押して、設定したい都市コードを選びます。



2.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡"DST" と "On" または "OF" が点滅します。



3.ON／OFF を切り替える

Ⓓ ボタンを押します

➡サマータイムの ON／OFF が切り替わります。



※ On＝サマータイム ON（夏時間）
OF＝サマータイム OFF（通常時間）
※ サマータイムを ON にすると、DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間早まります。
※ 各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、"GMT" 表示のときはサマータイムの設定はできません。

4.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※ 点滅表示のまま2 ～ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。
※ サマータイムが ON のときは、時差の前に "▶" マークが表示されます。



■都市コード一覧

コード	都市名	時差
――		–11
HNL	ホノルル	–10
ANC	アンカレジ	–9
LAX	ロサンゼルス	–8
DEN	デンバー	–7
CHI	シカゴ	–6
NYC	ニューヨーク	–5
CCS	カラカス	–4
RIO	リオデジャネイロ	–3
――		–2
――		–1
GMT	＜グリニッジ標準時＞	+0
LON	ロンドン	+0
PAR	パリ	+1
CAI	カイロ	+2
JRS	エルサレム	+2

コード	都市名	時差
JED	ジェッダ	+3
THR	テヘラン	+3.5
DXB	ドバイ	+4
KBL	カブール	+4.5
KHI	カラチ	+5
DEL	デリー	+5.5
DAC	ダッカ	+6
RGN	ヤンゴン	+6.5
BKK	バンコク	+7
HKG	香港	+8
TYO	東京	+9
ADL	アデレード	+9.5
SYD	シドニー	+10
NOU	ヌーメア	+11
WLG	ウェリントン	+12

※この表は2003年12月現在作成のものです。
※時差は協定世界時（UTC）を基準としたものです。

タイマーの使い方

時刻モードから Ⓒ ボタンを 3 回押して、タイマーモードに切り替えます。

タイマーは1分単位で100時間までセットできます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると 10 秒間の電子音が鳴ります。
また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

■ タイマー方法について

本機のタイマーは以下の２種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

●リピートタイマー（繰り返し計測）

タイムアップすると計測が止まります。約 10 秒後にタイマー時間表示に戻ります。

●オートリピートタイマー(自動繰り返し計測)

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的に同じ時間を繰り返し計測します。

※オートリピートタイマーを選ぶと“”マークが点灯します。

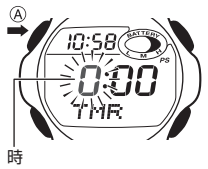
※繰り返し計測は合計 8 回行なうと、自動的に計測がストップします。

■ タイマーのセット

1.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「時」が点滅します。

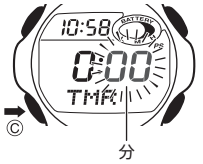


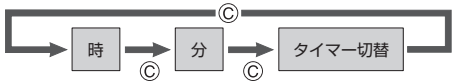
※ 計測ストップ状態からは、セット状態に切り替わりません。このようなときは、Ⓐ ボタンを押してタイマー時間にリセットしてから、再度 Ⓐ ボタンを約 1 秒間押すとセット状態になります。

2.セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



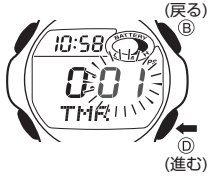


3.点滅箇所のセット

a.「時」「分」セットのとき

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ·Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。

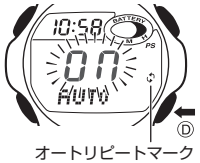
※ タイマー時間を 100 時間に設定するときは表示を“0：00”にします。

b.「タイマー切替」のとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにオートリピートタイマーとリピートタイマーが切り替わります。

※ ON にすると、オートリピートタイマーになり、オートリピートマーク“”が点灯します。



4.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

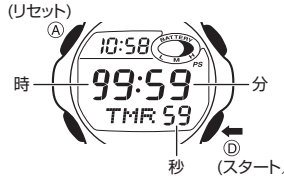
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。

※ 計測は 1 秒単位で行ないます。



●計測ストップ後 Ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。
●ロスタイムがあるときは、Ⓓ ボタンでストップ後、もう一度 Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

■ タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

時刻・カレンダーの合わせ方

以下の操作は時刻モードで行ないます。

充電切れなどで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

■ 時刻・カレンダーのセット

1.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「秒」が点滅します。

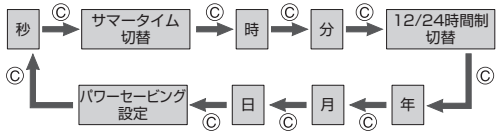


2.セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。





3.点滅箇所のセット

a.「秒」セットのとき

時報に合わせて Ⓓ ボタンを押します

➡「00秒」からスタートします。

※ 秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30 ～ 59 のときは 1 分繰り上がって「00秒」になります（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）。



b.「サマータイム切替」のとき

Ⓓ ボタンを押します

➡サマータイムの ON ／ OFF が切り替わります。



※ On ＝サマータイム ON（夏時間）
OF ＝サマータイム OFF（通常時間）

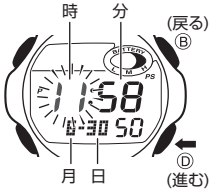
※ サマータイムを ON にすると、DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間早まります。

*サマータイム（DST）については「■サマータイム（DST）について」参照。

c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ · Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。

※「時」のセットのとき午前 (A) ／午後 (P)、または24時間制にご注意ください。

※「年」は2000 ～ 2039年の範囲内でセットできます。

※ 正しく年月日をセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※ カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

d.「12/24 時間制切替」のとき

Ⓓ ボタンを押します

➡12時間制表示“12H”と 24 時間制表示“24H”が切り替わります。



e.「パワーセービング設定」のとき

Ⓓ ボタンを押します

➡パワーセービング機能の ON ／ OFF が切り替わります。



※ On ＝パワーセービング機能 ON
OF ＝パワーセービング機能 OFF

※ パワーセービング機能を ON にすると、パワーセービングマークが点灯します。

4.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※ 点滅表示のまま 2 ～ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。

アラーム・時報の使い方

時刻モードから Ⓒ ボタンを 4 回押して、アラームモードに切り替えます。

■ アラーム・時報について

●通常アラーム（アラーム 1 ～アラーム 5）

設定した時刻になると 10 秒間の電子音が鳴ります。

●スヌーズアラーム（アラーム 1 のみ）

スヌーズ機能を ON にすると、設定した時刻に 10 秒間の電子音が鳴り、5 分おきに合計 7 回（約 30 分間）報音を繰り返します。
なお、スヌーズアラームのときは、ボタンを押して音を止めても再び鳴り出します。

●時報

毎正時（00 分のとき）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

■ アラーム時刻のセット

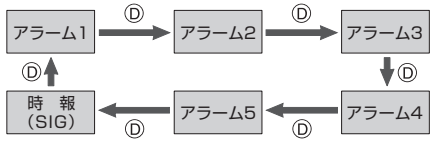
1.アラームを選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに表示が以下の順で切り替わります。セットしたいアラームを選びます。

※ アラーム 1 では「ALM」と「SNZ」が 1 秒ごとに切り替わって表示されます。





2.セット状態にする

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「時」が点滅します。

※ アラームマーク “))) ” が点灯し、自動的にアラーム ON になります。



3.セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



4.点滅箇所のセット

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。



※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。

※「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。

※ 基本時刻を 24 時間制にしているときは、アラーム時刻も自動的に 24 時間制で表示されます。

手順3.と4.の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

5.セットを終わる

Ⓐ ボタンを押して、点滅を止めます

※ 点滅表示のまま 2 ～ 3 分間すると、自動的に点滅が止まります。

●アラーム 1 がスヌーズアラームのときにセット操作を行ないますと、スヌーズ機能は OFF になります。

■ アラーム・時報のON／OFF 設定

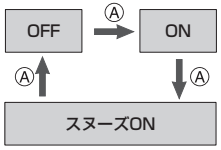
準備：Ⓓ ボタンを押して、設定したいアラームまたは時報（SIG）表示を選びます。

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐ ボタンを押すごとに、以下のようにアラーム・時報の ON／OFF が切り替わります。

※ それぞれのマークが点灯しているときが ON となり、アラーム・時報が鳴ります。

●アラーム 1



●アラーム 2 ～ 5、時報





■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラーム機能中のときは、約5分後に再び鳴り出します（スヌーズ中はスヌーズON マークが点滅します）。

※スヌーズアラーム機能中のときに以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。

- ●アラームモードでアラーム 1 をOFFにしたり、通常のアラームに切り替えたとき。
- ●アラームモードでアラーム 1 をセット状態にしたとき。
- ●時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

■ モニターアラーム

アラームモードでⒹ ボタンを押し続けると、押している間、電子音が鳴ります。